

動が大事なので、其の日其の時を慎む事が大事であります、之ればかりの事嘘を言ふたとて構はないとは、誰れの心にも起り易い所で御座います、其の之ればかりの事、と氣を許しますれば、塵も積りて山となるの、諺にも洩れず、つひには大なるうそになるので御座います、そこで其の母の信頼は薄らぎます、同時に母親を侮る様になります、子供は我儘を始めます、我儘が長じては、ついに父親でも先生でも構はず、一寸其の面前丈は慎みましても、かけで悪事を働く様になります、こゝに於てか濟度しがたい悪少年少女となつて、ついに世間からは疎まれ、憎落の道をたどるより外ない破目に陥りまして、一身一家を誤るやうになるのあるも事と存じます。

一獨乙人の見たる日本

藥川生

一般とは申されませんが獨乙人は個人々々の日

本人に對しては頗る好意を表して居りますが、日本人全體としては、あまりそうでないかと思はれます。私の知つてをります、一獨乙人の如きは個人としては、大層親切に同情に富める人でありましたが、日露戦争當時の如きは、日本よりも遙かに露國の安危を顧慮して居るやうに見受けられました。

一度支那に勝ち更に露國を破つて、赫々たる光榮をになう日本國は、將來偉大なる使命を持つて居るものと思ひます。近來、新聞紙又は雜誌等に世界に於て日本人は優待され歓迎さるゝ記事を盛に見まするが、表面的でなく禮儀上でなく、骨肉相親むが如く日本を愛して居る西洋人は夥多ありませうが、思ふに之れは主として日本に對する皮層の觀察の爲め日本及日本人を誤解してゐる結果でありまして又一面には彼我文物の全く背馳してゐる爲めと思ひます。我々は彼等をして日本人の温和なる性質、高尚なる趣味を知らしむると共に、更に自ら練磨して一層進歩向上し眞の日本人の價値を認めさせたいと思ひます。

左に一獨乙人の見たる日本及日本人に對する觀察を述べて見ませう。

日本及び日本人

日本は太平洋中に横はる一孤島である。元來の日本の住民はアイヌであつて、現今は僅かにエゾの一隅にその餘命をたもつのみにて、しかも烈しき壓迫とアルコール中毒とは、彼等の滅亡を遠き將來にをかさないであらう。ベルツ博士の説によれば、アイヌは白哲人種系に屬すべきものであつて、現在の日本人はマレー人種と蒙古人種の混合したる人種である。

日本の男子は我々の概念によれば、美と云はんより寧ろ醜と云はなければならぬ。身長及體力以外にも日本人は次の諸點により我々歐洲人と異なつて居る。即ち皮膚の色は暗褐色乃至黄色で、伶俐そうな然し或る意味に於て狡猾さうな顔色である。勁直なる黒色の毛髪を歐洲式にならばせんと努力して居るが頗るむづかしい。胸は長く足は短かい、鼻は一般に平たい、かるが故に顔全體が平たく見える。(成程外國人は鼻が高

いせいか顔全體が尖つて我々には見えませう。殊に異様なのは日本人の歩き振りである。(之れはよく我々の耳にする事で日本人の歩き振は餘程不思議に見えるものと見え、日露戰役當時などスベインで發賣をされたがその他佛蘭西等に於ても同様ですが、諷刺的繪葉書などに日本人の歩み振りを奇抜に模倣し一見憤慨にたへぬやうな嘲弄的のものさへありました。幼少より跪座する爲めでありませうか。御話が少し岐路に立入りませうが、一體跪座。風習は日本古來のものでなく、戰國時代にかなる方面より敵が切り込んで參りまして、即座に應答が出来るやうにあのやうな姿勢をとつたものであるとの説を聞いた事があります、成程あぐらをかいてゐたりねそべつてゐるよりは迅速に身構が出来るでせうが、天下泰平の大御代造次顛沛も敵の爲めに身構へする必要もなくりました。今日は跪座する必要もないでせう。椅子による如きは善き風習と思ひます)。婦人は男子よりも多少倭少で非常に早熟である、婦人のみならず男子も、體力は遙かに歐洲人より

劣り、我々の最も活動する年齢に於て、日本人は
 はや繁雜劇務にたへ得られなくなる。
 日本國は我々と我球の反對の側にたつて居る、我
 國（ドイツ國）に於て太陽の登らんとする頃日
 本に於ては人々が寢に就く。私は本國に電報を發
 する場合には、いつも午後に發信するを常とした。
 もしも午前に發信するならば同じ日の早朝到着す
 るの不便がある、それは日本に於て發信したよりも
 四五時間早くドイツに到着するからである。
 獨り時間に於てのみならず、あらゆる點に於て日
 本は我が國と相反して居る。我々には恰も事々物
 々顛倒したる世界にあるの感がある。
 先づ日本に於ては衣服を着して後袴をはく（彼等
 は御存知の通りツポンを穿ちてより上衣を着す、
 尤もツポンと我が國の袴とは全くその性質を異に
 して居ります）其袴の事をツポンと云ひます。
 原本にはマントルを着しのちツポンをはくとあれ
 どいかなる日本人と雖もマントルを着して後ツポ
 ンを着する人はありません。殊に我々に奇異に
 感ぜらるゝは、日本の書籍である。我々の書籍の

卷尾より讀み始め、我々の左より右に讀みゆくに
 反し右より左に讀みゆき、我々は左より右へ書せ
 ども日本に於ては上より下へ方にと書す。我々の
 書籍の注釋は頁の下方に記すれども日本に於ては
 上方に記す。全く顛倒したる一例を擧ぐれば他人
 の宛名を書く場合に、ヘルン、カールシュミット、カ
 フキングルストラアセ、マメロ五十三、ミュンヘン、
 ドイシテラントと書せども日本に於てはドイシテラ
 ント、ミュンヘン、カウフキングルストラアセ、五十三
 スメロ、ミュミットカールヘル、と字々反對に認む。
 その他日附等に就きても同様なり、獨乙文學を日
 本語に譯す場合は大抵文の終りよりなすを便利と
 す。勿論彼等の立脚點より見れば我々の文字は滑
 稽なるべし。彼等は洋字を蟹文字と稱す、それは蟹
 の如く横行する意より來りしものなるべし。
 我々が日本人と散歩を試むる時は、必ず我々を己
 の左方に行かじめ決して右方に立たしめず、そは
 左方即心臓の所在にて側は日本に於ては高貴なる
 側としてあるからである。（曾つて余の知る一獨
 乙人）去秋初めて日本に來りホテルに投宿した夕

頗る滑稽の事を演じました。即ちホテルのボーイが何か用事があつて氏を手招きする氏は倉皇戸を排して出てゐつて仕舞たのです。之れは日本人のなす手招は獨乙人にはあちらへ去れと云ふ意味なのです。あちらでは招ぶ場合には掌を上にして内方へ招くのです。然し之れは所かはれば品變るで或る獨乙人が一英人の許に招かれた事がある、食物を進められた時此獨乙人の大好物があつたので御代りをしやうと思つてゐました。それと見た英人は早速『御かへ下さいまし』とすゝめると、獨乙人は『サンキュー（難有う）』とやつけた。すると英人は手をひつこましてもう御代をくれな。獨乙人も變な顔をする英國人も變な顔をする、然し之れは言葉の相違でありまして、獨乙ではもつと食べたい時に『ダンケー（難有う）』とやる、英國ではもう澤山の時『サンキュー（有難う）』とやるのであります、斯る場合日本語で『アリガタウ』と云へばたべたい方にもなるしたべたくない方にもとれます。なんと日本語は外交的な言葉ではありませんか。

日本の家屋は主として木よりなり二階三階の建物は珍らしい。我々のガラスの代りに日本にてはうすき紙を用ゆる（或る英書に日本に於てはガラスはむしにめづらしき物にて我々が汽車に乗る時その窓ガラスに白色の横線がある、之れは日本人がガラスを何となきものと思ひ頭を打つけるの危険にそなへる爲めかく白線をひくものなりとありました。随分人を馬鹿にしてゐるではありませんか、尤も外國に行つて四方八方に鏡があるので、鏡にはち合せしたり、自分に御辭儀したりする人はままあつたとき、自分（されば日本の家屋は非常に燃焼し易い。之れが日本に大火のある原因であらう。

日本の衣服即ちキモノは、肩より足に達するもので、我々の寝衣に多少類似して居る。衣服の袖は非常に幅が廣く、日本人はポケットとして用ゐてゐる。キモノにはボタンがない。たゞ一條の紐で即ち帯で結ぶのである。此の帯は非常に立派なるものがあつて日本キモノに對する費用は決して僅少のものではない。殊に盛装したる婦人の服装は

一つの審美的感を吾人に興へる。今や、欧州の風俗習慣は漸々日本に侵入し、フラックを脚につけクラワツターをうしろむきにつける人はない。然しながら夏に於てはシャツ一枚のほか他物をも身につけぬ人、又は腿までのヤツケを着る人、或はチョッキのみで上衣なくしかも眼鏡をかけてゐる人さへある。

帽子はあまり用ひない、時に婦人類は各頭より顔を布にてつゝ、ひよりはか帽子類は一切用ひない。

日本本来の帽子は漆でぬつた皿形のものであつて之れは雨に對しても頗る有功なものである。

婦人は嫁する時齒を染め眉を落す風習があつた、妻女併に娘は一般に厚化粧にして、ことに若き女は白粉にて顔の表面に新らしく一層をつくり口唇を眞紅に染む。富裕なる人々は小指の爪を長く伸ばして居る、之れは目下の烈しき労働をしないと云ふ證據である。

日本人は客の訪問日もしくは訪問時間を規定せず人はいかなる日、いかなる時に於ても自由に訪問する事が出来る、且その訪問時間は非常に長くあ

る、之れは日本のみならず一般東アジアに於いてその傾向をみとめるが、我々は夕方静かに讀書もしくは翌日の準備にとりかゝらんとするとき、忽ち下婢が一名刺を取りつぐ、さすれば私々は我々の用事をば貴重なる翌朝にまはさなければならぬい。我が或る日本人を訪問した時の事を次ぎに述べて見よう。まづ我々は人力車をやとう、人力車とは人をのせて人自らが車をひくのである、即ちこの人は一人にして馭者と馬とを兼ねる者であつて、彼等は非常に速い、私は日本人は世界一の疾走者ではあるまいかと思ふ、且その賃金は甚だ廉い、我々は訪問すべき家の前で車より下り、歩くと云ふよりもむしろ爬うやうにして入口を入り玄關に到る、日本の戸は左右にガラスので室毎に錠がある、と云ふやうな事はない、客間に通されて不思議に思ふ事は一つも家具のない事である。床の間に繪がかけてあつてその前に花瓶がおいてある、その他には机も筆筒も、ストープも鏡もない。やがて主人があらはれて來るがその談話は實のない事ばかりである、重に天氣に關して云ひ、又は極

めて平近にある物に關してのみである。かやうな
 空談に數時間が失なはれるのである。
 日本にては一日に三度食事をそる、即ち朝と晝と
 夕とである、夕餐が日本では主なる食事として
 ある。我々が食事に際し第一に欠く可らざるもの
 即ち肉、パン、馬鈴薯は日本人の食膳には見受け
 られない近來日本の中流もしくは中流以上の家庭
 には、肉類を次第に用ゆるがなほ日本人の多く
 は菜食家である。何故に日本人は肉を食はないだ
 ろうか。之れは疑ひもなく佛敎の影響であつて、
 佛敎に於いては生物を殺戮すると云ふ事は禁じら
 れてある。日本人の主なる食物は米である。我々
 歐洲人には日本料理は美味とは思はれない。二本
 の棒きれを以て食物を口に迄運ぶ困難は大なる物
 である。私は自國の船隊が横濱につく毎に遊びに
 ゆくのを何よりのたのしみとしてゐる。

マニラの話

小寺みさを

二四

早起き早寝
 土人は皆朝は大そう早く漸く東が白むだかと思ふ
 と直ぐに起きます、そしてそれ／＼働きます。何
 故なれば午前のうちには十時頃まで涼しく働さま
 すのに大變樂で御座いますから朝の内働いて晝は
 寐て暮します、正午お晝御飯を頂きますとそれこ
 そお箸を置くと直ぐ横になり午後二時まで晝寢
 を致します、これは一家内悉くでボーイに至る
 まで寢る事になつて居ります、それ故此二時間と
 いふものは誠に此間が静で御座います、晩は大方
 八時に夕飯でやはり濟み次第に寢に付きます、か
 うゆとねて計り居るよう御座いますそれでも御
 存知の通り熱帶地で御座いますから此日中の暑さ
 といふものは實に何とも申されませぬ位ですから
 此日中に働きますと大變身體に障りますから自然
 休むようになつて居ります、奇體な事に日本でも